

第14回雪のラブレター募集(入賞作品)

【恋文の部】

賞	最優秀賞
作品	「風邪ひいた」彼のメールで軍手はめ 雪下の大根を掘る
作者	くじらっこ
住所	奈良県
講評	生活に根ざした、シンプルで力強い恋文です。愛とか恋とか、あまい言葉を一切出さず、「軍手」「大根」「掘る」といった無骨な言葉を連ねたことが、かえってこの女性の健気さや愛情の深さを浮き上がらせ、滋味豊かな印象になったのではないのでしょうか。こんな彼女がいるのなら、彼の風邪も、すぐに良くなることでしょう。

賞	優秀賞
作品	僕んちへ毎日来てよおばあちゃん！雪ぬけなんかしなくていいよ」雪の降らない街住む孫の言葉が嬉しくあたたかい冬
作者	チョコママ
住所	山形県
講評	何のてらいも無い素直な文章に、言葉通りの「嬉しさ」「あたたかさ」を感じました。こんな孫のひと言を心に留め、幸せを感じて生きることが、人生を豊かにするのだと教えられた気がします。
作品	天文館に降る灰を、雪だと言って、はしゃぐ君。一緒に帰ろう、白銀の君の故郷へ。
作者	感王寺 美智子
住所	宮城県
講評	「桜島の灰」「鹿児島に降る灰」と書いてもいいところを、「天文館に降る灰」としたところに作者のセンスを感じます。結果的に、地理的なスケールだけではなく、運命的な広がりまで感じさせる素敵なラブレターになりました。

賞	佳作
作品	かたい鉄の背中を振り向かせるため、小さな雪玉ひとつ、投げつけてみようか。雪道進むたび、乙女の妄想がちょっぴり大胆になる。
作者	ナフータ
住所	東京都
作品	初雪が降った日の朝、君はギリギリで電車に乗り込むと制服に付いた雪を払った。その雪が私のところへ…「あっごめん。」真っ直ぐに私を見たあの優しい瞳を忘れることができなくなった。あっ来た。今日もまた、君と雪を乗せて電車が動き出した。
作者	ろん
住所	新潟県
作品	白雪の中、もしかしてだれかこのあたりで赤い糸を見つけませんでしたか。もし見つけたら絡まったもつれをほぐしたい。そして伝えたい。わたしは今でも待っています、と。
作者	よしのぼり
住所	東京都

選者： 岡崎由紀子（日本脚本家連盟理事、東京都武蔵野市在住。映画「アイ・ラブ・ユー」、テレビドラマ「警視庁捜査一課9係」、「水戸黄門」、「かりゆし先生ちばる！」などの脚本を担当。また、舞台「オペラジャンヌ！」では脚本に加え演出も担当している。）

応募作品数：489作品